

メカトロニクス制御技術委員会 (MEC)

第3回メカトロニクス制御技術委員会

【日時】 : 2013年9月17日(火曜日) 14:00 - 17:30

【会場】 : 芝浦工業大学 芝浦キャンパス 7階705室

〒108-8548 東京都港区芝浦3-9-14

【出席者】:

委員長: 島田 明(芝浦工大)

一号委員: 熱海武憲(HGST), 池田英俊(三菱電機), 岩崎 誠(名工大), 内村 裕(芝浦工大), 梅村敦史(北見工大), 桂誠一郎(慶應大), 鈴木昌和(東海大), 辻俊明(埼玉大), 滑川 徹(慶應大), 平田光男(宇都宮大), 藤本博志(東大), 山口 高司(リコー), 涌井伸二(農工大)

二号委員: 大西公平(慶應大), 大石 潔(長岡技科大), 奥山 淳(東海大), 藤本康孝(横国大)

幹事: 関 健太(名工大), 名取賢二(千葉大)

幹事補佐: 佐藤 基(東洋電機製造)

オブザーバ: 南方英明(千葉工大)

オブザーバ (IIC): 下野誠通

【配布資料】:

- 3-0 第3回メカトロニクス制御技術委員会 議事次第
- 3-1 第2回メカトロニクス制御技術委員会 議事録(案)
- 3-2-1 メカトロニクス制御技術委員会名簿(2013年5月)
- 3-2-2 メカトロニクス制御技術委員会メーリングリスト 2013.9.17
- 3-3 2013年度 MEC 担当表(修正案)
- 3-4-1 平成25年度 メカトロニクス制御技術委員会 活動報告
- 3-4-2 平成26年度(H26年4月~H27年3月) 活動計画(1次案)
- 3-5 毎年3月上旬に開催する産業計測制御研究会をワークショップにする件
- 3-6 技術委員会の2013年度重点取り組み
- 3-7-1 第56回自動制御連合講演会 オーガナイズドセッション一覧
- 3-7-2 第56回自動制御連合講演会 「OS21 モーションコントロール」資料
- 3-8-1 H26年電気学会全国大会(愛媛大) シンポジウム提案の依頼(E-mail)
- 3-8-2 平成26年電気学会全国大会開催概要
- 3-8-3 平成26年電気学会全国大会 シンポジウム取決め
- 3-8-4 平成25年電気学会全国大会 シンポジウム日程表
- 3-9-1 新産業基盤技術としてのモーションコントロールに関する(協)委員会 活動報告書
- 3-9-2 ナノスケールサーボのための革新的な制御技術(協)委員会 活動報告

- 3-9-3 生体運動制御（協）委員会 活動報告
- 3-9-4 実世界ハプティクス(協)委員会 活動報告 および 全国大会シンポジウム提案用紙
- 3-11 平成 25 年度研究会活動補助金計算書
- 3-12 メカトロニクス制御技術委員会判子 レイアウト案

【議事】

1. 前回議事録（案）確認 資料 3-1
関幹事より, 第 2 回メカトロニクス制御技術委員会の議事録(案)の内容についての説明があり, その確認を行った。議事録（案）の通り承認した。
2. 名簿およびメーリングリストの確認 資料 3-2-1, 3-2-2
委員会名簿及びメーリングリストの確認を行った。
 - ・埼玉大学の辻先生がオブザーバから 1 号委員に変更となっている。
 - ・IIC 幹事補佐となる予定の明電舎の山口様がオブザーバとなる予定である。
3. MEC 担当表について 資料 3-3
島田委員長より各担当の割り振りと活動について説明がなされた。
 - ・和文論文誌と英文論文誌の担当を分けているが, これは英文論文誌に実際に携わっている方から情報を得るという目的のためである。
 - ・C 部門の制御技術委員会 (CCT) より提案があり, 協力して担当することとなった。
 - ・先端制御技術の産業応用に関する(協)委員会の委員長が大西義浩委員から中茎委員になったため, その担当については島田委員長から IIC の柴田委員長に相談することとなった。
4. 平成 25 年度 活動報告について 資料 3-4-1
関幹事より平成 25 年度の活動について説明があった。
 - ・11 月の見学会の詳細を早急に決定する必要があることが確認された。
 - ・ISIE2013 における OS の論文数が不明であるため, 下野委員から関幹事に連絡をすることとなった。
 - ・日本ロボット学会学術講演会において島田委員長が論文数 6 編の OS 「倒立振子型ロボット」を提案したことが確認された。
5. 平成 26 年度活動計画（1 次案）について 資料 3-4-2
関幹事より, 平成 26 年度の計画について説明があった。詳細な時期についての変更がある場合には関幹事に連絡することとした。
6. 技術委員会の 2013 年度重点取り組みについて 資料 3-6
名取幹事より, 研究調査運営委員会から検討結果の報告を求められている重点取り組みについて説明があり, 各項目について議論した。各項目についての意見の抜粋は次の通りである。

- ① 研究会への企業からの発表を増やしたい。
 - ・協同研究委員会等での話題提供を研究会発表につなげる。
 - ・研究会への投稿を早い段階から委員長名義で依頼する。
 - ・企業からの論文を集める invited industrial session を企画する。
 - ・大学と企業の共同研究がある場合には、大学側ではなく企業側の担当者に発表をしてもらう。論文指導などは大学側がバックアップする。
 - ・ページ数は6ページでなくても良いことを周知する。
 - ・定期的に学会、研究会情報を発信するメーリングリスト、HPを作成する。
 - ・優秀論文発表賞を受賞した学生を就職後、invited session を企画して、投稿を促す。
- ② D部門英文論文誌への投稿を増やしたい。
 - ・アクセスフリーである英文論文誌の論文をIEEEやEPEの論文などで積極的に引用してもらい、知名度を高めるとともに高いIFがつくことを目指す。
- ③ 技術報告をすみやかに発行する。
 - ・期限に遅れた原稿は掲載せずに他の原稿のみで発行することを徹底する。
 - ・話題提供した内容を研究会原稿やシンポジウム原稿としてもらい、それをベースにして技術報告の原稿としてもらう。
- ④ 技術報告の内容をPRし、多くの会員に購入してもらう。
 - ・技術委員会のHPに電子図書館へのリンクを貼る。
 - ・産業応用フォーラムを積極的に開催する。

その他、各項目の共通事項として、技術委員会のHPを作成し、その中で技術委員会および傘下の調査専門委員会、協同研究委員会の活動をPRしつつ、研究会や特集号、技術報告書の発行状況をPRする。

7. 研究会及びワークショップの検討 資料3-5

大石委員より研究会のワークショップ化についての説明があり、どのように進めるかについて議論した。委員会当日の議論のまとめは次の通りである。(現在も検討を継続中である。)

<予算に関する検討>

- ・研究会資料の売り上げ(年間約150万円)を補填できる運営が必要である。
- ・売上150万円の中の利益については技術委員会個別では明らかにならない。
- ・投稿する可能性が大きい研究室に想定される予算を提示し、研究会に投稿していた論文をこちらに投稿しようと思うかを調査する。
- ・傘下の各委員会による研究会の回数を増やせば資料売り上げはあまり減らないと考えられる。
- ・各研究会のタイトルを傘下委員会すべてが参加可能なものに設定する。

<開催時期に関して> (懇親会での検討も含めた結論)

- ・第1回のWSは2015年3月に名古屋で開催されるICM2015の直後に開催する。
- ・第2回以降は毎年3月に国際WS(査読有)と日本語WS(査読無)を同時に開催する。

8. 自動制御連合講演会OSについて 資料3-7-1, 3-7-2

島田委員長より本年度の第56回自動制御連合講演会のOS一覧およびMECおよびIICで提案している「OS21 モーションコントロール」のセッション構成案について説明があった。

9. 電気学会全国大会シンポジウムについて 資料3-8-1, 3-8-2, 3-8-3, 3-8-4

関幹事より平成26年の全国大会のシンポジウム提案について説明があり、MECからはハプティクス委員会から1件提案することとなった。提案書類は大石委員より関先生(千葉工大)に直接送付することとなった。

10. 委員会報告

○ 新産業基盤技術としてのモーションコントロールに関する(協)委員会

- ・ 第6回委員会を7月9日に芝浦工業大学で開催し、2件の講演と見学会をおこなった。
- ・ 第7回委員会を9月18日に千葉工業大学で開催予定である。
- ・ 第8回委員会を12月4日に東京大学で開催予定である。
- ・ 産業応用部門大会(山口)でシンポジウム「新産業基盤技術としてのモーションコントロール」を開催した。
- ・ ISIE2013(Taipei)で2件のSSを開催した。
- ・ IECON2013(Vienna)で3件のSSを提案している。
- ・ AMC2014(Yokohama)で多数のSSの提案およびその協力をしている。
- ・ IPEC2014(Hiroshima)で2件のOSを提案している。

○ ナノスケールサーボのための革新的な制御技術(協)委員会

- ・ 第5回委員会を6月21日に東京都立産業技術高専で開催し、2件の話題提供と見学会をおこなった。
- ・ 第6回委員会を9月3日に東京電機大学で開催した。
- ・ 第7回委員会を12月に長岡市で開催予定である。
- ・ 「ナノスケールサーボのための制御技術」と題した研究会を9月3日に東京電機大学で開催した。3つのセッションで12件の発表があり、参加者は36名であった。
- ・ IECON2013(Vienna)で1件のSSを提案している。

○ 生体運動制御(協)委員会

- ・ 第1回委員会を5月24日に慶應義塾大学新川崎K2タウンキャンパスで開催し、2件の講演をおこなった。
- ・ 第2回委員会を8月20日に慶應義塾大学新川崎K2タウンキャンパスで開催し、3件の講演をおこなった。
- ・ 第3回委員会を11月7日に慶應義塾大学新川崎K2タウンキャンパスで開催予定である。
- ・ IECON2013(Vienna)で1件のSSを提案している。
- ・ IECON2013(Vienna)で1件のチュートリアルを提案している。
- ・ AMC2014(Yokohama)で1件のSSを提案している。

○ 実世界ハプティクス（協）委員会

- ・ 第5回委員会を6月21日に芝浦工業大学で開催し、2件の講演と見学会をおこなった。
- ・ 第6回委員会を8月31日に山口市で開催し、2件の講演をおこなった。
- ・ 第7回委員会を11月22日にアオーレ長岡（長岡市）で開催予定である。
- ・ 第8回委員会を3月に松山市で開催予定である。
- ・ 「実世界ハプティクス」と題した研究会を11月22日にアオーレ長岡（長岡市）で開催予定である。
- ・ 平成26年電気学会全国大会においてシンポジウムを提案予定である。
- ・ ISIE2013(Taipei)で1件のSSを開催した。
- ・ IECON2013(Vienna)で1件のSSを提案している。
- ・ AMC2014(Yokohama)でのSS提案準備を行っている。
- ・ 日本ロボット学会でOS「ハプティクスとモーションコントロール」を開催した。

11. 幹事補佐の交代について

佐藤幹事補佐より、幹事補佐の交代についての提案があったが、事情についての情報が少ないため、まずは藤本博志委員と佐藤幹事補佐で検討をしていただくこととなった。

12. MEC 補助金予算について 資料 3-11

本年度のMECの補助金交付額について、最低補助額の20,000円であることが確認された。

13. 技術委員会の判子について 資料 3-12

MECの判子の図面案について確認され、「メカトロニクス」というカタカナを含めた縦書きの図面を基本として作業を進めることとなった。